

令和 7 年度 事務事業マネジメントシート		段階： 令和 6 年度実施事業に係る事務事業評価					5503	母子健康教育事業					こども部	こども家庭課
1 事業概要		中事業番号		620									所属コード	222500
政策体系		SDGs	広域事業	総合戦略	セーフ	2025	2030	2040	2050	D X 推進	手段	意図（目的）		
大綱（取組）	Ⅲ「学び育む子どもたちの未来」	3.7		3-1							市内の中学校に出向き、生徒を対象とした教室を実施する。	生徒が生命の大切さを感じ、自分及び他者を大切にすることを理解することを目的とする。		
施策	1 人と人がつながり、みんなで子どもたちを育むまち													

事業開始時周辺環境（背景）		現状周辺環境		今後周辺環境（予測）		住民意向分析	
学校教育の中で、生命の大切さを考えさせる事業の必要性ができた。		思春期のこどもの体の変化だけでなく心の変化や性の多様化等、思春期のこどもに関わる教育の必要性が高まっている。また、少子化が進み、親になり子どもを産むときになって初めて赤ちゃんに触れる親も多くなっている。このため、赤ちゃんに慣れていない親が困難な育児をせざるを得ない状況が発生しやすくなっている。		性に関する知識を学び生命の尊さや大切さを理解していくことは継続的に必要である。		中学生に対する思春期教育の必要性が中学校にも理解され、生徒の健全な育成に期待がもたれている。	

2 事業進捗等（指標等推移）			まちづくり基本指針五次実施計画		まちづくり基本指針六次実施計画		まちづくり基本指針七次実施計画		まちづくり基本指針八次実施計画		次期実施計画		次期実施計画		まちづくり基本指針	
指標名	指標名	単位	2022年度（令和 4 年度）		2023年度（令和 5 年度）		2024年度（令和 6 年度）		2025年度（令和 7 年度）		2026年度（令和 8 年度）		2027年度		中間指標	
			計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	計画	2021年度	最終指標
対象指標	思春期教育実施予定生徒数（中学 2 ・ 3 年生）	人		2,669		2,602		2,729								
活動指標①	思春期保健事業実施学校数	校	15	7	15	12	15	17	17		17		17	17		
活動指標②	思春期保健事業実施回数	回	20	8	20	22	20	49	30		30		30	30		
活動指標③	思春期保健事業受講者数	人	1,000	360	1,000	890	1,000	1,775	1,500		1,500		1,500	1,500		
成果指標①	命の尊さや大切さが理解できた受講者数	人	995	322	950	761	950	1,602	1,425		1,425		1,425	1,425	1,998	1,425
成果指標②	命の尊さや大切さが理解できた受講者割合	%	99.5	89.4	95.0	85.5	95.0	90.3	95.0		95.0		95.0	95.0	99.9	95.0
成果指標③																
単位コスト（総コストから算出）	命の尊さや大切さが理解できた受講者 1 人あたりのコスト	千円		3.9		2.1		7.4	1.4		1.4		1.4	1.4		
単位コスト（所要一般財源から算出）	命の尊さや大切さが理解できた受講者 1 人あたりのコスト	千円		3.9		1.8		7.1	1.1		1.1		1.1	1.1		
事業費		千円		159		440		1,178	1,886		859		859	859		
人件費		千円		1,094		1,170		10,688	1,170		1,170		1,170	1,170		
歳出計（総事業費）		千円		1,253		1,610		11,866	3,056		2,029		2,029	2,029		
国・県支出金		千円				220		429	941		429		429	429		
市債		千円														
受益者負担金（使用料、負担金等）		千円														
その他		千円														
一般財源等		千円		1,253		1,390		11,437	2,115		1,600		1,600	1,600		
歳入計		千円		1,253		1,610		11,866	3,056		2,029		2,029	2,029		
		実計区分	評価結果	継続	改善	継続	継続	継続	拡充							

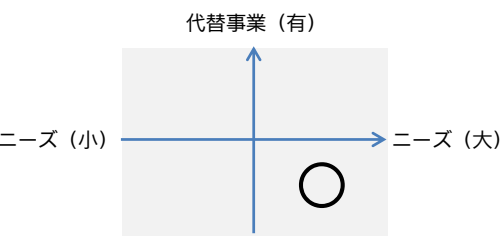
活動指標分析結果	成果指標分析結果	総事業費（事業費・人件費）分析結果
新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降、講義でのみの実施しており実施校数が減っていたが、令和5年度から育児体験も復活させた。講話は学年につき1回の実施ができるが、育児体験はクラスごとの実施となる。令和6年度は育児体験での希望が増えたため実施回数も増加した。	講義後のアンケートで「命の尊さや大切さ」について「よくわかった」と答えた生徒は1,602人であり、受講者全体からは90.3%であるが、アンケート回収数が1,701人で回収数に対する「よくわかった」と答えた生徒の割合は、94.2%であり、目的はほぼ達成できていると考える。	【事業費】 実施回数が増加したこと及び育児体験は1回あたり3名の助産師の協力を得ていることから、事業費が増加した。 【人件費】 実施回数が増えたことで、職員の出場回数、物品の搬出入、管理、アンケート集計、学校との調整等事務作業量が増加した。また、依頼している助産師だけでは、教室運営人数が間に合わず、会計年度看護師も出場したため、人件費が増加した。

3 一次評価（部局内評価）

（1）事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4	
2 公平性	3	
3 効率性	3	
4 活動指標（活動達成度）	4	
5 成果指標（目的達成度）	4	

（2）事業継続性評価



継続	一次評価コメント
令和5年度より育児体験を復活したところ、希望校が増え多くの中学生に命の大切さや性に関する知識を伝えることができた。「命の尊さや大切さが理解できた」割合は講義85.3%、育児体験93.3%のであり、講義より育児体験の方が高く、何かしらの体験があることで、事業の主旨も伝わりやすいと考える。講義、育児体験2つの方法を用いながら、思春期特有の心や体の変化、命の大切さを伝えるため、事業を継続する必要がある。	

5レス	カウンターレス	キャッシュレス	ペーパーレス	ファイルレス	ムーブレス（会議レス）
	○				

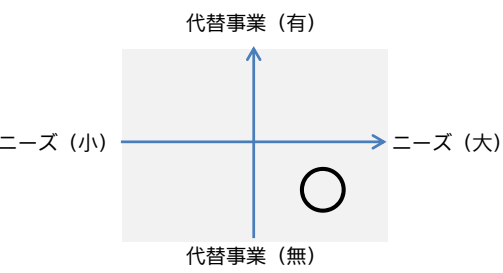
気候変動対応	D X（デジタル市役所）	部局間協奏
	○	○

4 二次評価

（1）事業手法評価

1 規模・方法の妥当性	4	
2 公平性	3	
3 効率性	3	
4 活動指標（活動達成度）	4	
5 成果指標（目的達成度）	4	

（2）事業継続性評価



継続	二次評価コメント
令和 6 年度においては、思春期保健事業の実施回数が49回、受講者数が1,775人と目標を大幅に上回った。特に育児体験の復活が成果向上に寄与し、「命の尊さや大切さ」の理解率は90.3%に達した。過去のコロナ禍による講義形式のみの実施を改善し、希望校の増加に対応できた点大きい。思春期においてこどもに関わる教育の重要性が高まる中で、生徒への教育効果が高い本事業は将来的な社会課題の解決に寄与することから、今後においても継続して事業を実施する。 なお、育児体験実施に伴う人件費が増加傾向にあることから、事務の効率化に留意する必要がある。	

（参考）令和 6 年度カイゼンのための行動計画